

## 第34回くまもと環境賞 受賞者一覧

名前	受賞状況	主な功績
株式会社エコファクトリー 一級建築士事務所 アトリエ ロクス ATELIER-LOCUS	部門賞 (くまもとゼロカーボン賞)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一般流通木材と軽量鉄骨を組み合わせた「WoodsWall工法」を開発。</li> <li>この工法は、木材使用量を約2.23倍に増加させ、国内林業の活性化と環境負荷の低減に貢献。(延べ床面積684.68㎡において約15,600kgの炭素固定量を達成)</li> <li>また、地域工務店やビルダーとの連携を通じて、地産地消を推進。</li> </ul>
認定NPO法人 阿蘇花野協会	部門賞 (くまもと自然共生賞)	<ul style="list-style-type: none"> <li>草原を資源として利用するシステムとして、草を飼料として利用するとともに、茅葺き屋根の材料としての利用、刈干パックの利用促進などを通して、草原が経済的価値を持つ利用方法を検討し持続可能な形で阿蘇の草原を保全する方法を確立。</li> <li>また、2022年度からは野焼きを中止し、その代替作業となる「刈草焼き」を実施。</li> </ul>
熊本県立宇土高等学校 科学部地学班	部門賞 (くまもと自然共生賞)	<ul style="list-style-type: none"> <li>不知火の再現実験や光路シミュレーションを行い、不知火の解明に向け、観測以外でも研究を実施。</li> <li>2023年は世界で初めて再現実験に成功。</li> <li>2024年に36年ぶりとなる不知火の観測に成功。</li> </ul>
熊本県環境保全協議会	部門賞 (くまもと水の国賞)	<ul style="list-style-type: none"> <li>業種の垣根を越え、会員相互に情報交換や交流を図りながら、「地域全体の環境保全」を目標に、様々な環境保全活動を展開。</li> <li>地下水かん養田における田植え、江津湖清掃、「熊本県環境保全協議会の日(6/1)」個別一斉活動を実施するとともに、広報活動などを通して、県内企業や県民に対して環境保全の重要性を発信。</li> <li>また、環境保全に関する研修会・講演会の開催や会員企業からの取組事例発表も実施。</li> </ul>
阿蘇市立阿蘇西小学校	部門賞 (くまもと環境教育賞)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2010年度より阿蘇の草原に関する体験学習を実施。</li> <li>約40年に渡り校区内の牧野から熊本市動植物園のアフリカゾウに野草を出荷していることを知った児童が、阿蘇の草原の保全利用に役立つ活動として、被災した動植物園のアフリカゾウに自ら刈り取った阿蘇の草原の青草を届ける活動をしている。</li> <li>「草原と水といきもの」をテーマに熊本市と阿蘇をつなげる学習を実施。</li> </ul>
やすお せいざぶろう 安尾 征三郎	地域貢献賞	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒尾干潟の環境保全を提言し、2010年荒尾干潟が環境省より「ラムサール条約湿地潜在候補地」に選定されたことを受け、ラムサール条約登録に向けた活動を開始し、その中心的役割を果たした。</li> <li>荒尾市長に対して、「荒尾干潟ビジターセンター設置」などの提言を実施。野鳥の会や荒尾市の働きかけにより、2019年環境省が、「荒尾干潟水鳥・湿地センター」を建設。</li> </ul>
西里校区まちづくり委員会		<ul style="list-style-type: none"> <li>井芹川大清掃を実施。(各自治会住民、保健科学大学から教諭・学生、必由館高校の野球部の学生 計約1,000人が参加)</li> <li>西里駅の花の苗植え活動(西里小学校4年生による 各種250苗の植え付け)</li> <li>西浦川ほたる観賞会を実施(約3000人来場)などの活動を通して、井芹川と共に生きるまちづくりを実施。</li> </ul>
熊本県立鹿本農業高等学校 生活デザイン科 学校家庭クラブ	奨励賞 (くまもと循環型社会賞)	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域にある課題や私たち高校生に託された役割とは何かについて考え、もったいない宝を失わないためにどのような活動ができるかについて計画を立案。</li> <li>文化祭では「身近にあるもったいない布」を活用し、エコバックを作成し販売するとともに、回収情報をタグにつけた情報発信活動を実施。</li> <li>(株)ファーストリテイリング(ユニクロ)がUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)とともに取り組んでいる活動である「服のチカラプロジェクト」に参加し、校内外に向け退蔵衣類の回収の呼びかけを実施。</li> </ul>
熊本高等専門学校 八代キャンパス	奨励賞 (くまもと環境教育賞)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境問題(地球温暖化・SDGs・脱炭素等)に取り組む力を持ち、環境問題の解決に貢献できる人材を育成するための、環境教育「八代モデル」を構築し、地域循環共生圏の実現に寄与する人材を育成することを目的のひとつとしている。</li> <li>「八代モデル」では、学生(学習者)が主体となって学びを進めるリベラルアーツ教育をフィールドとして、答えのない問題や課題テーマを学生自身が探索し、デザイン思考(対象とするユーザーを理解したうえで「本当にユーザーが望むものか?」を考慮しながら解決策を探る)に基づく、学生グループによる創造的な活動によってその解決に取り組んでいる。</li> </ul>